

第4次総合計画・第2期総合戦略に係る パブリックコメントと回答一覧

資料1

パブリックコメント概要

期間	令和2年9月23日 ~ 令和2年10月23日			
人数 (総数8名)	男性	6名		
	女性	2名		
意見内訳 (総数16件)	概要版	2件	内	直接関連しない意見 1件 総合戦略に関する意見 1件
	総合計画本編	7件	内	総合計画に関する意見 7件
	総合戦略本編	4件	内	総合戦略に関する意見 4件
	全体を通して	3件	内	総合戦略に関する意見 1件 直接関連しない意見 1件 どちらにも関連する意見 1件

意見内容を大別すると以下の3点に集約

- ・ 具体的な施策の提案に関すること
- ・ 表現に関すること
- ・ 指標に関すること

第4次総合計画・第2期総合戦略に係るパブリックコメントと回答一覧

(8名 16件)

項目	番号	ご意見内容	大分類	小分類	回答
①【概要版】榿原市4次総合計画・総合戦略戦略(案)について	①	<p>1ページ「減少が進む人口」 私は77才ですがこの市内、内膳町で育ち、晩成幼稚園から小学校・八木中学校と進み、37年(昭和)社会に飛翔、父は近江商人でしたが、大戦後、売買物が無く、又戦地生活が続き、商人としての活路が断つ。しかしその心に流れる血は豊かであり、私もその精神を引き継いでいました。「売り手良く、買い手良く、世間良し」の心意気は私の心身にも自然と受け継がれています。そこで1ページの減少する人口の最大の原因は過去の市民だよりに市人口に流失転出者の多いことである。魅力輝きが色あせる。この地域、転出者の人数が市民だより末ページの片隅に掲示、転入者がこれに勝ることがなく、また地域で共に育った友も街を歩いていなくなり、同窓会でも市内在住者は激少。 対応ページ3。基本計画の1.みんなが活躍し個性輝くまち 当市の中心、いや奈良県の第2の都市榿原市の中心部である近鉄八木駅、ここからの発信が重要であります。過去に小泉政権が駅前シャッター街から店を開けることが多発ゴーストタウンの再生に活性化資金を提出と最初100億円でした。私はここ駅前に活用すべく市役所都市計画吉本氏、中尾と会見、47都道府県で100億円の内、どう獲得するか県と協働を持ちかけました。吉本氏はこの小泉政策をご存じなく、説明伝え、直ちに八木西口より県庁に企画部長田中と会見。「今県はこの案件についてどう取り組むか模索している。県内での活用、しかも県として中南和であればのを得ている」と急きょ部長会議を開催。榿原市も取組むことに、その結果交流ナビが建ちました。しかしまだ残っているのが同駅北駅前での活用です。この北出口を通して帰宅するのですが、暴走族の基地や夜になる若者が屯ろしてあまりいい環境ではありませんでした。私は「大和輝きの広場」として市に提案、市、市民、学校、企業、諸団体等と協働して中和、南和、宇陀、葛城地域との交流「人と物と心」のバブ役を果たす広場にと訴えました。噴水設備の経費と安全確保も多大の問題でした。この場所に1階に産業文化交流、百貨店化粧品売場の商ケース設置し、企業の紹介、資料を展示、その分會費をいただき、その資金がこの建物の運営資金(光熱・通信・施設保持等)に充当、運営はボランティア、1階企業ケースの上は文化活動中の人々発表の場(2カ月に1回展示交代)書道・絵画・手工芸品等、そしてその建物2階はステージにピアノ1台(収納管理室設置)西側(八木駅吉野方面の壁に3面の背景画(古代絵・和風絵・洋風絵を吊り下げ方式)ステージで市内教育関係(例えば八木中学のブラスバンドが全国金賞に輝いたら、ここで発表会や踊り、歌、体育祭、演奏会とかをここでお披露目発表することにより、学校内でするのはなく不特定多数の人々に認知、金・土など、今日は八木駅前を何をするのか、楽しみにしていただく広場、それが県内第2の街の果たせる役であり、又より良い榿原市にここまで何もかもJ.C、商工会議所ではなく、多くの市民団体ボランティアに託すことが最善、健全な運用が市民が最も求める明るい社会、信用される社会であります。</p>	直接関係しない意見	基本計画	<p>人口減少している榿原市に対して、社会増を促すべく大和八木駅北側にハブとなるような広場や建物の再開発と、運営に当たって市民協働を考えてはどうかというご指摘かと思えます。ご指摘のとおり、賑わい創出のため、大和八木駅周辺については中南和の玄関口として、市民をはじめとする多様な意見を賜りながらまちづくりを実施していかねばならないと考えており「22まちづくり・景観」で表現させていただいております。また、市民や事業者など多様な主体と共にまちづくりをしていくことは、今回の総合計画において重要な要素ですので、市民協働についても今まで以上に取り組んで行く必要があると認識しており、「27行政運営」にて表現させていただいております。具体的な事業については実施計画で表現させていただくところになります。</p>
	②	<p>P12について 人口増加を目指すためには、自然増に繋がる施策と社会減が進まない施策とをバランス良く進める事が肝要だと考えます。また、人口だけを増加させるというだけではなく、地域に地縁や思い入れのある人達が増加し、結果として地域が活力やコミュニティを取り戻すことができれば理想的だと思います。</p>	第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	総合戦略	<p>総合戦略では、本市の強み(「歴史を活かす」「交通利便性を活かす」「住みやすさを活かす」)を活かし、4つの基本目標を軸に政策を進めることにより、人口ビジョンの達成を目指しております。その過程において、地域の活力やコミュニティの推進にも取り組み、シビックプライド(郷土愛)の向上等に努めていきます。</p>
②【本編】榿原市4次総合計画(案)について	③	<p>P78「持続可能な公共施設のマネジメント」について、 ・厳しい財政状況であるから、市民との情報共有を行い、再配置について理解を得るとともに、他の自治体と連携し、保有総量の最適化を図り、質の向上に取り組む。 ・施設の老朽化や、耐震性能を有していないため、行政運営の拠点となる新本庁舎の整備を進める。 の2点を表現しているように思われるが、現状の文章では、少し分かりにくいと感じます。</p>	第4次総合計画の内容に関する意見	基本計画	<p>「27行政運営」に関しましては、政策を実施するうえでの土台となる考え方となっております。第4次総合計画においては、今後も急激な社会情勢の変化が予想されることから、施策分野における取組みを具体的に記述しておりません。各施策分野において具体的に何を実施するかについては、毎年更新する実施計画で表現させていただくところになります。</p>
	④	<p>6. スポーツ(P.34) 日常的に・・・気軽に運動やスポーツに親しめる場所とあるが、スポーツ施設や学校の運動場や体育館などは会員や団体などにあらかじめ加入している必要があり、一般市民(特にこども達)からすると全ての人が気軽に運動やスポーツに触れ合える機会、場所が少なくなっている。 21. 公園・緑地 にも関係してくるが、誰でも何時でも気軽に(利用料金なし)運動やスポーツなどを楽しめるように公園や広場などを整備してほしい。例えば、バンビシヤス奈良などの地域に根付いたチームを応援する、地元選手を育成するというのであれば、公園や広場に誰でも利用できるバスケットゴールを設置するなど、榿原運動公園には設置されているがもっと身近な公園や広場にもストリート的にこども達が利用できるスポーツ施設を増やしてほしい。</p>	第4次総合計画の内容に関する意見	基本計画	<p>ご指摘のとおり、気軽にスポーツができるような施設の運営や整備していくことが重要です。そのためには民間活力を活かしての利用拡大や設備整備等のサービス向上をさせたり、学校体育施設を開放したりするといったような取組みが求められるため「6スポーツ」で表現させていただいております。また、具体的な取組みについては、実施計画で表現させていただくところとなります。</p>
	⑤	<p>⑤交通：市内移動に関し、公共交通機関のみで移動するのは困難であろう。奈良県・主要地・市町村で有識者会議を開催し、対策を検討すべき。 ⑩障がい福祉：精神疾病などひきこもりを含む8050問題に対し、本格的に手をつける事が必要であろう。⑧地域福祉へ問題が悪化し、更なる問題へ発展するだろう。</p>	第4次総合計画の内容に関する意見	基本計画	<p>交通の施策分野については、ひとつの市で全てを完結させるのではなく、国や奈良県、他自治体、交通事業者、住民等と協力していく視点が求められています。榿原市域の交通を検討する榿原市地域公共交通会議、奈良県全体の交通を検討する奈良県地域交通改善協議会が開催されており、国や奈良県、他自治体、交通事業者、住民代表等と議論を重ねております。また、8050問題については、ご指摘のとおり、取り組んでいくべき問題であり、地域課題の解決や困窮世帯の支援等について「8地域福祉」にて表現させていただいております。また、榿原市第4期地域福祉推進計画第4章Ⅲ(1)包括的な相談窓口・支援体制の構築にて、精神疾病等ひきこもりを含む8050問題に関して具体的に表現しております。</p>
⑥	<p>P58について 近年、人の移動が「同時に大量に」から「個人のニーズに合わせる形」へと大きく変化し始めています。また、高齢者の運転操作の誤りに起因する事故も後を絶たず、運転免許証の返納促進が社会課題にもなっています。自動運転技術のレベルも日々向上している現状もあり、誰もが安全に便利に移動できる交通手段の整備が必要とされているように感じます。</p>	第4次総合計画の内容に関する意見	基本計画	<p>今後、新型コロナウィルスが根絶するのか、長く付き合っていくことになるのか不明確なことや最新技術・サービスの変化が著しいことから、具体的な方向性を出すのが難しい部分となっております。例えば、技術の進歩により自動運転が可能となった場合、運転をすることがなくなったとしても免許証が完全に不要になるかどうかは不明確です。また、新型コロナウィルスが根絶し、密を意識せずに済む社会に戻るなら、ライドシェアや効率的な公共交通の幅も広がってくることもあろうかと思えます。新しいものだけでなく、既存のバスやタクシーなどを組み合わせ活用することも考えられます。現状から、具体的な取組みを表現することまでは難しいため、抽象的な方向性で表現させていただいております。</p>	

項目	番号	ご意見内容	大分類	小分類	回答
②【本編】 榎原市第4次総合計画(案)について	⑦	19P 「ひと」、「まち」についてひらがな表記としているのはどのような意味があるのですか。「ひと」については漢字も使われているところもあるようですが。カテゴリのⅡ「ひとづくり」は支える人なので漢字表記としたはでしょうか？また、Ⅲの「まちづくり」は「街づくり」としてはでしょうか？ 24P、26P 目指す姿について「～夢と希望を描いています」は保育・幼児教育の時期ではなく学校教育の時期ではないでしょうか。保育・幼児教育の時期は「～能力を伸ばし元気に育っている」にして学校教育において「～バランスよく身につけ夢と希望を描いています」してはでしょうか。 34P 4Pで課題としてあげている子どもの体力づくりについて追記してはどうでしょうか。 66、67P 「まちづくり」と「街づくり」の両方を使ってはどうでしょうか。 72、73P 「しごと」と「仕事」の使いわけにはどのような意味があるのですか。	第4次総合計画の内容に関する意見	全体	まち・ひと・しごとがなぜ平仮名なのか、漢字との違いは何かというご指摘かと思えます。漢字で表現することは、言葉の意味を限定することになります。例えば「ひと」については生物学的な意味でのヒトなのか、人格を意味するのか、人権を意味するのか等、多くの意味を包含しておりますが、基本構想や施策分野レベルの抽象度においては多くの意味を表現できて親しみの持つことができる平仮名で表現し、取組み例のレベルまである程度の具体化したものについては意味を特定する漢字での表現としております。なお、取組み例にて「まち」と表現しているのは、前回の総合計画から一般的な表現として記述しており、一貫性を保つために使用しております。 また、保育・幼児教育と学校教育においてどちらの時期に、目指す姿として何を重視するのかというご指摘かと思えます。ご指摘の考え方による目指す姿もひとつの形かと思えますが、今回の総合計画におきましては、まず保育・幼児教育期において多様な生活体験や外部専門家・地域交流等を通して夢を描き、学校教育で夢を更に膨らますことができる多様な力をつけていくような位置付けを想定させていただいておりますので、標記の内容となっております。
	⑧	総合計画なのでそこまで言わなくても良いという意見があるとは思いますが、これまでできていなかったことなのでそこは職員や市民の意識付けのためにも書いてほしいと思うことを述べたい。一つは法令順守、なにをするにしても法令順守することをまず明記してほしい。その上で、事業実施において必要なこととして、計画を立てた時に必ず目標とそれに応じた評価指標をしっかりと複数用意することを明記してほしい。	第4次総合計画の内容に関する意見	全体指標	ご指摘のとおり、法令順守を逸脱し、行政の信頼を失うようなことはあってはならないことです。したがって、第4次総合計画においては、法令遵守は当然にしながら、更に信頼を得られるような行政であることが求められると認識しております。最低限度を守るだけで満足するのではなく、情報の提供や透明性を高めることでより信頼を得られる行政を目指すべきであると考え、「27行政運営」において表現しております。 第4次総合計画においても進行管理を実施していくことから、指標を設定することは必要なこととなってまいります。しかし、指標は、行政から見た行政活動の結果（アウトプット）ではなく、市民から見た行政活動の成果（アウトカム）に基づき設定されるべきものであり、新型コロナウイルス感染症や自然災害等の様々な要因により変動する可能性が高いことから、目標値を設定しそれを達成することだけを評価の基準とすることは、適切ではないと考えます。施策評価においては、市民アンケートを実施し、施策分野ごとの指標を策定当初で初期設定し、中間年と最終年において評価し、公表していく予定です。また、事務事業評価においても、事務事業ごとに毎年目標と実績の指標を設定した上で、自己評価を実施し、公表する予定です。ただ、施策評価については、事務事業を複数束ねるものであり、より俯瞰的な評価になるため、1つの指標とします。事務事業についても、複数の指標を設定できないものがある可能性があるため、明記することはできません。
	⑨	初めに、コロナ禍で大変お忙しい状況で本計画(案)を作成された事に対して敬意を表します。 5年10年との長期計画となりますと、現況コロナ禍が未だ収束の見込みがたらず、なお第2波の心配が冬季になり心配されます。其の為、榎原市の人口予想、財政状況ともに、今後予定通り、計画通りには進む事は難しいと考えるのが妥当です。まず、大切な事は市民の安全・安心に重点的を置いて政策を進めて頂きたいと思えます。国の財政も逼迫している現況で、地方自治体は財政が人口減と共に縮小されると考えられます。企業も限られた業種しか利益を確保出来ませんので、企業誘致も進めにくいと考えられます。資料を見ますと、普通会計決算29年度43866(百万円)の内、人件費6682扶助費10839です。令和2年度11275となりかなり増額とのことですが、人件費29年度6682から令和2年度8570(百万円)とこちらの方がかなりの増額です。p14財政力低下p15分庁舎建設に伴い支出で悪化したとの事です。初めから分かっていた事です。p77行政については、人口減少、IT化に伴い職員も自治体業務省力化が必要です。部長級が32名とたいへん多いと考えられます。後進に譲って早く仕事を覚えるようにして下さい。p74農業は大切です。国内自給率が低下していますから、農業に携わる若い方を応援するような施策が必要です。また、固定資産税が高いと他府県から来られた方からよく聞きます。大きな収入源では有りますが、住宅を購入する転入者を増やす為にも一考の余地は有ると思えます。農作物も他の産業も地産地消を目指して市が給食や働きかけをするのは良いと思えます。ただ、まほろばキッチンで買い物客から、「こんなん売ったはる」(マイナス イメージで)言われる事が有るので、他で売れない物を売るのではなく良品を販売して欲しい。p26教育は特に小中学に習得した学力はどの社会に進んでも、一生影響を及ぼすので、新しい知識も必要ですが、基礎学力をしっかりと学ぶように指導して頂きたいです。実際高校生になって、分数が分からない子供もいます。 食育もとても大切な事です。コロナ禍で教育は特に大変な事と考えます。個々の問題は実際にひとつずつ解決しなくてはなりません。道路等のインフラについては、担当課でご尽力頂いているかと思いますが、近年の災害の予想がつかない事が今後も発生すると考えられるでしょう。新本庁舎がハザードマップで過去に50cm水没があったとの事です。 老朽化した現庁舎ではなく、既存の施設に移動して執務される方が安全ではないかと考えます。市民の中で生活困窮者も発生しているかも知れません。そのような市民に対する対応も現況で出来るのかどうか、考えて頂きたいです。中長期計画は実際には社会状況、コロナ禍等で難しい事には変わりなく、たとえ少しでも上記意見が参考にして頂ければ幸いです。 よろしくお願い申し上げます。	第4次総合計画の内容に関する意見	基本計画	ご指摘といたしましては、①行政におけるヒト・モノ・カネの最適化を図るべき。②農業については、農作物の質の向上・後継者育成。③食育も含めた教育の充実。④防災に関する整備。⑤固定資産税について。かと思えます。固定資産税につきましては、全国一律での基準で賦課をさせていただいております。その他のご指摘につきましても、各分野においての表現を補強していただいているご意見かと思えます。事業を取り組んで行く際の参考にさせていただきます。
③【本編】 榎原市人口ビジョン(案)、第2期榎原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について	⑩	P7、P14 P7の「転入・転出数」を見ると、男女とも25～29歳および0～4歳の転入・転出者数が多い。もう少し詳しく分析しないと分からないが、結婚を機に榎原市に転入し、出産や入園・入学のタイミングで転出している方が多いのではと考えられる。 年少人口や生産年齢人口の流出を防ぐためには、P14「基本目標と重点施策」として、最優先するべき基本目標は、「安心して子供を産み育てられる環境づくり」ではないかと思えます。	第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	総合戦略	総合戦略の基本的な考え方としては、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことです。ご指摘のとおり、男女とも25～29歳及び0～4歳の転入数・転出数が多くなっていますが、その理由として結婚・子育てのみならず就職等によるしごとの都合も原因と思われます。総合戦略は、しごとや子育て、それを支える人の流れ・まちづくりに関する政策を着実に実行することにより、本市人口ビジョンの達成を目標としています。その過程で、特に顕著な取組みとして見出される政策については、総合戦略の目玉として、例えば中間見直し時に総合戦略に盛り込むことも含めて検討していきます。
	⑪	P16について 総合戦略の計画期間が5年間となっていますが、必要な施策はさらに一定期間継続することで成果が現れると考えます。成果指標の確認を含め、適宜、見直しも加えながら、進捗を図る必要があると考えます。	第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	総合戦略	第1期総合戦略については、国等の総合戦略を勘案しつつ、4つの基本目標を軸にそれぞれ重点施策(基本的方向)を定めて策定しました。この第1期総合戦略の事業を進めていく過程で、課題となったのが戦略予算の確保の難しさでした。第2期総合戦略では、第1期の反省を振り返りつつ、戦略予算の確保を前提に、計画期間(令和3年度～令和7年度)の5年間に一定の成果を見いだすことを目標に策定しました。今後も総合戦略に位置付けられた政策の進捗を検証しつつ、必要に応じて見直ししていきます。

項目	番号	ご意見内容	大分類	小分類	回答
③【本編】 榎原市人口ビジョン（案）、第2期榎原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について	12	8P 将来人口展望について合計特殊出生率を中間目標値1.83（2040年）と国の1.8（2030年、2035年または2040年）より高くし、長期目標値2.07については目標年を2055年と国（2050年）より遅らせたのは何故ですか？1Pの国の長期ビジョンのグラフ参考2に合わせるのも良いのではないのでしょうか。	第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	人口ビジョン	本市人口ビジョンを平成27年度に策定した時点では2020年合計特殊出生率を1.5と仮定していました。しかし、全国的に合計特殊出生率が伸び悩んでいる中、本市においても例外的ではなく、2020年合計特殊出生率の見込み（1.37）や、平成30年の国立社会保障・人口問題研究所の推計の時点修正を勘案して、2040年に国民希望出生率（1.83）、2055年に人口置換水準（2.07）を目標に設定しております。
	13	すでに現時点での人口と、千人単位ですこしずれてるような気がする（人口のグラフ）。	第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	人口ビジョン	本市人口ビジョンは、国の長期ビジョン等を踏まえ、合計特殊出生率（自然増減）や移動率（社会増減）を仮定し、平成27年国勢調査の人口を基準に2060年までの人口の動向を推計しております。現在、令和2年国勢調査の調査中であり、調査結果と人口ビジョンとの乖離が大きい場合は、国や県の人口ビジョンの動向や社人研の時点修正を勘案した上で変更も視野に入れて検討してまいります。なお、2020年10月現在の住民基本台帳による人口は121,483人で、人口ビジョン（案）は121,536人（表記は12.2千人）となっております。
③その他全体を通したご意見	14	人口減少という言葉ばかりがクローズアップされていますが、適正人口についてはあまり議論されていないように思います。榎原市の適正人口は一体どれぐらいなのか？気になります。総合計画・総合戦略ともに、必要な取り組みが示されていると思いますが、「力の入れ具合」が読み取りにくい印象を受けました。特にどの分野を重点的に進めるのかなど取り組みの「軸」のようなものが表現されていれば、市の目指す方向が伝わりやすいと感じました。	第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	人口ビジョン	適正人口とは、人の総数が最大の人口規模の維持と全ての人々のための最適な生活水準の両立が実現できる人口のことで、ある機関の試算では日本の適正人口は5,500万人という結果が出ています。仮にこの5,500万人を日本の適正人口として仮定した場合、平成27年国勢調査ベースでの国（約127,094千人）と本市（約124千人）の人口割合で案分すると、本市の適正人口は約53,700人と算出されます。この適正人口の考え方は、人口の増加が必ずしも最適な生活水準の両立を実現できるものではないという点において、人口ビジョンのあり方を改めて考える必要があります。
	15	第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の業績指標はR1とR7で比較することがわかるのですが、基本構想の成果を測る指標はいつ、どの時点の指標（基準指標）と比較するのですか？また、その基準指標値はいくつですか？厳しい財政事情のなかの行政運営となりますが、総合計画を着実に実行し、榎原市が住みやすい街ランキングの上位にランキングされるように取り組んでください。よろしく申し上げます。	直接関係しない意見	基本構想 基本計画 指標	総合計画につきましては、基本構想はまちづくりの指針に該当するため、指標の設定がありません。基本構想を具体化する基本計画には、指標を定めております。27ある施策分野ごとに目指す姿を設定し、その目指す姿に近付いているかどうかで指標を設定しております。基準の指標については、令和2年度に市民アンケートを実施しており、今後は計画の中間年と最終年に市民アンケートを実施し、その成果として初期値と比較していきます。成果としては、「施策評価」として、評価するごとに公表していく予定です。総合計画においても表現しているとおおり、今後も厳しい財政運営が予想されます。今回策定いたします第4次総合計画を着実に実行し、住みやすいまちづくりに取り組んでいきます。
	16	これまで時間を掛けて練られてきた内容だと思う。ただし、新型コロナウイルス感染症がまったくなかった時代にほとんどの内容が練られているため、この内容で決定するのではなく、コロナの影響が見え次第変更できるように「暫定版」としておくほうが良いと考える。コロナの影響は長期間続くと考えられており、想像も付かない生活様式の変更が数ヶ月後に出てくる可能性もあるため、変更の余地を残すためにも今後何度か検討の機会を持つことを補記しておくほうが良いのではないかと。 PDCAは書いてあるが、必要なのはPDCAの前提となる指標の設定が何より大事なので、そこに一言触れてほしい。	第4次総合計画の内容に関する意見	全体 指標	ご指摘のとおり、第4次総合計画及び第2期総合戦略の策定中に新型コロナウイルス感染症の流行があったことから、策定期間を1年延長しております。第4次総合計画においては、各施策分野で具体的な取り組みまでは記述しておりません。それは、新型コロナウイルス感染症も含めて今後の社会情勢の変化が急激なものであり、将来を予測することが困難であることからです。第3次総合計画の策定は13年前に遡りますが、策定後は東日本大震災、大規模な水害、更には今回の新型コロナウイルス等、これまでは想定されなかったリスクが起っています。第4次総合計画は、あらゆるリスクに対応していくため、柔軟性のある計画としています。そのため、具体的な取り組みを記述せず、毎年更新する実施計画において表現していくことで、年度ごとで取り組みを変更できることを想定しております。また、本編の冊子については加除式を想定しており、総合計画についても内容を変更することが可能なものとなっております。更には、「社会情勢」と「27行政運営」において、新型コロナウイルス感染症を加味した表現をしており、「27行政運営」においては行政の行動規範として、常に有事を意識し、危機管理に努めていかなければならないという方向性を示させていただいております。総合計画の基本構想は今後10年を、前期基本計画は今後5年を見据えて策定するものであり、後期基本計画の策定の際には、その時点での状況で基本計画の中での言及を検討して参りたいと考えております。また、施策分野の指標については、施策分野ごとに目指す姿を設定し、現在と計画の中間年と最終年で市民アンケートを取り、施策評価という形で公表してまいります。事務事業評価については、事務事業ごとに指標の目標値と実績値の設定と自己評価をし、公表してまいります。第4次総合計画においては、指標による評価ももちろん重要ですが、PDCAサイクルを循環させることによる自己評価を重視していきます。前年の評価を反映した事前計画や予算を策定し、事業を実施し、評価を適正に行い、その課題を次年度の計画や予算に反映させていきます。
			第2期総合戦略・人口ビジョンの内容に関する意見	総合戦略	総合戦略についても、あらゆるリスクに対応していくため柔軟性のある計画としています。今後、総合戦略を推進していく過程で、具体的な政策が見えてきたならば、例えば、中間見直し時に盛り込むことも含めて検討していきます。